

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3001200019		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ゆうりこう		
所在地	高知県香美市土佐山田町百石町1丁目3番44号		
自己評価作成日	令和元年 9月10日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は香美市の中心部に位置するものの、周囲を緑に囲まれ、車で5分程の所にJRの駅や商店街が、また、周辺には郵便局、大型スーパー等があり、すぐ近くには消防署や病院等もあって、利便性に優れています。</p> <p>居室は全室個室で広く、利用者が好きな家具やインテリアを置いても、ゆったりと過ごすことができます。共有スペースである談話ホールや和室、食堂ホールには窓が多く、日差しがたっぷりと入り、明るい雰囲気となっています。</p> <p>日々の生活では、利用者個々の状態に合わせた機能訓練や、軽作業への取り組みを行ない、生活の活性化に力を入れています。</p> <p>料金も低料金で、母体法人には重度化した場合にも対応できるような介護保険施設などもあって、支援体制が充実しています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;jkyosvoCd=3991200019-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;jkyosvoCd=3991200019-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和元年11月5日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅街と商店街に隣接した静かな場所に位置し、近くには消防署、病院、郵便局、スーパーなどがあって、便利が高い。日当たりがよく、共有スペース、居室とも広くゆったりと過ごせるようになっている。敷地内には家庭菜園を楽しめる畑もあり、利用者は職員と一緒に家庭菜園での作業や収穫を楽しんでいる。</p> <p>地域交流については町内会に加入し、地域の一斉清掃や防災訓練には職員が参加し、地域の一員として付き合い関係づくりに努めている。</p> <p>災害対策では日中、夜間の火災、地震を想定した訓練、風水害を想定した訓練を消防署と連携して定期的実施しているほか、備蓄品の点検更新も定期的に行って、備えができています。</p> <p>職員間のチームワークはよく、事業所運営や個々の利用者のケアについて意見を出し合って、一人ひとりに合った支援につなげている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:せせらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、笑顔あふれる心ゆたかな毎日を目指す」という基本理念のもとに、ミーティングを通して職員間で話し合っケアを振り返り、理念に沿ったケアが実践できるよう努めている。	開設時の理念を簡潔に分かりやすく修正し、朝の申し送り時に復唱している。カンファレンス時にも共有のうえケアを振り返って、理念に沿ったケアの実践につなげている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	傾聴ボランティアや日本舞踊のボランティアの訪問が定期的であり、山田祭りの日には踊り子隊が駐車場で踊りを披露してくれるなど、地域交流を盛んに行い、地域とのつながりが途切れないようにしている。	町内会に加入し、地区の一斉清掃や地域の防災訓練に職員が参加している。地域の情報は回覧板や運営推進会議で得ている。山田祭りには複数の踊り子隊が事業所前で踊りを披露してくれたり、日本舞踊や傾聴ボランティアの訪問も定期的にある。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の場や、地区総会等に参加し、認知症についての相談が気軽に行えるよう、常に情報発信をしている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の近況や活動の報告を行っている。会議で出た意見はミーティングや職員会などを通じて職員に報告し、話し合っ、事業所サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。	地域の代表、家族、行政の参加で事業所の取り組みや外部評価について報告し、話し合っているが、外部からの参加者が毎回4名程度と少なく、活発な話し合いには至っていない。議事録は事業所便りと一緒に家族に送付している。	地域との関係性や災害時の協力体制の構築のためにも、民生委員や老人クラブ、消防団等にも参加を依頼して、多様な意見や情報をサービス向上につなげることを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市担当者とは細かなことでも連絡、相談を行い、良好な関係性の構築に努めている。市が開催する研修には、できるだけ参加するよう取り組んでいる。	運営推進会議には市担当者が必ず出席し、助言が得られている。不明なことがあれば、いつでも担当者に連絡し、気軽に相談できる関係性ができている。地域包括支援センターが主催する研修会には、職員が参加している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、積極的な研修参加や、事業所内での勉強会により職員の知識向上を図って、不適切なケアにならないよう努めている。	母体法人の研修会に参加し、伝達研修で職員に周知している。日中は玄関は施錠せず、見守りに対応している。言葉による拘束が見られたときは、職員同士で注意し合い、身体拘束をしないケアに努めている。夜間にコールマット使用の利用者は複数名いるが、家族の了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人全体で取り組んでおり、積極的な研修参加に努めている。管理者は職員が利用者と関わる様子にも気を配り、職員のストレスについても見逃さないよう、話をする機会を多く持っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等が必要な利用者については、管理者が市に出向き、対応する体制をとっている。また、職員が制度の理解ができるように、定期的に勉強会を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等をもとに、家族が不安を持つことのないよう、不明な点はないかを確認しながら、説明を行っている。面接時や入所前にも、できる限り説明を行うよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日々の関わりの中で意向を汲み取るようにしている。家族の来訪時には、要望を聞けるよう、コミュニケーションの取りやすい環境を作っている。出された意見や要望は、申し送りや会議で報告して、業務に反映させている。	おしゃれ好きの利用者からの要望を受け、一緒に洋服を買いに行く等の対応をした。家族が来訪した際には近況を伝え、意見や要望を聞くほか、家族会は年3回開催し、意見を聞いている。家族からの意見も反映させている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを密にし、常に意見交換している。業務中にも意見を聞き、運営に反映させている。	申し送り時や職員会で職員の意見を聞き、運営に反映させている。シーツの交換はこれまで全て週1日で行っていたのを、業務との兼ね合いで難しいとの職員意見があり、2日に分けて交換することにした等の業務改善に反映されている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望をできるだけ勤務シフトに反映し、無理なく業務を遂行できるように調整している。資格取得を奨励し、勉強会や研修等へ参加できる体制をつくって、職員が向上心を持って働けるようサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内外の研修情報を職員に提供し、順次参加できるよう働きかけている。研修受講後は職員会等を通して情報共有し、事業所全体のスキルアップに努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広報活動や母体法人内外の研修参加により、他事業所との交流が図れるよう努めている。交流の場で得た情報をもとに、サービスの質向上にも取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、担当職員から情報を得た上で本人と面接をし、困っていることがないか確認して、可能な場合は事業所を見学してもらい、少しでも不安が解消できるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と事前に時間を取り、入所に至るまでの経緯を聞き、困っていること、不安に思っていることの把握に努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としているサービスがある場合は、本人、家族と話し合い、母体法人内外の関係機関や行政と連絡を取り合って紹介するなど、対応をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が本人と一緒に掃除や畑仕事、家事等の軽作業を行い、利用者一人ひとりがこれまでの生活で培ってきた、経験や知識を教わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には、面会時や家族会で利用者の近況を報告している。忙しく面会に来られない家族には、お便りや電話などで報告を行い、要望などを聞いている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>気軽に友人や知人が面会に来られるよう、家族や友人にも協力してもらっている。外出なども継続して行えるよう支援している。</p>	<p>職員の付き添いで自宅近くへドライブしたり、仲の良かった以前の入所者に会いに行くことで、馴染みの人や場との関係継続を支援している。行きつけの美容院を利用したり、家族と一緒に食事に出かける利用者もいる。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士の関係性について日々情報収集し、職員間で共有をしている。レクリエーションや行事等に参加してもらい、活動を通じて利用者同士の交流ができるよう支援を行っている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族とは、普段から気軽に相談ができるような関係性の構築に努めている。また、長期入院等で退所した利用者は、その後の行き先についても事業所の紹介や入所相談などの支援を行っている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で観察力を高め、会話や本人の表情、仕草等から、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。家族来訪時にも、本人の意向を確認して、思いや意向の把握に努めている。</p>	<p>入所時に利用者、家族から意向や要望を聞き、把握している。職員は利用者との日常会話や表情から思いを汲み取ったり、家族の来訪時に意向や要望を聞くよう努めているが、新たに得た情報が記録されていない。</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや意向を職員間で共有し、ケアに反映させるために、センター方式などを参考に利用者の思いや意向の把握を追記し、職員間で共有して、ケアに反映させることを期待する。</p>
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所後の生活に活かすことを説明し、入所前の生活歴やサービス利用状況を聞き、得た情報を職員間で共有し、入所後は適切な対応ができるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で利用者の状態を把握し、軽作業等を一緒に行うことで、できること、できないことの把握に努めている。自分でできることが継続して行えるよう、支援に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や意向を確認し、職員間で日々のケアについて話し合い、現状に合った介護計画の作成に努めている。	アセスメントは計画作成者が行い、3ヶ月毎にモニタリング、カンファレンスを全職員で行って、介護計画を見直している。介護計画は、利用者、家族の意向を踏まえて策定している。利用者に状態の変化があるときは、随時現状に即した介護計画に変更している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、業務日誌に日々の様子を記録している。申し送りやノートを活用して、職員間での情報共有ができています。また、必要に応じて介護計画の見直しも行っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて柔軟な対応をすることで、その人がその人らしい生活が送れるよう、介護計画を見直し、家族が安心して就労や生活ができるように努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力のもとに、避難訓練を行っている。また、地域のボランティアにも定期的に訪問してもらい、利用者で交流することで、楽しく豊かに暮らせている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療だけでなく、病状に応じて専門科への受診対応も行っている。定期的な受診は家族対応を基本としているが、緊急時や家族の都合に合わせて、適宜職員が対応している。	利用開始時に了解を得てかかりつけ医を協力医に変更し、月1回の往診を受けている。専門医受診は原則家族対応としているが、現状では職員が付き添うことが多い。受診結果は個人ファイルに記録し、共有している。母体法人の訪問看護が月2回あり、利用者の健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との医療連携で利用者の日々の健康状態や体調不良時の連絡を密にし、指導、助言、指示が迅速に得られるよう連携を図っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、日々の状況などを情報提供している。入院中には職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努め、医療相談員や家族との連絡を密にして、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、本人、家族に重度化した場合の方針について十分な説明を行っている。重度化した場合には、他の施設や医療機関への移動がスムーズにできるよう、日頃から相談員や主治医とも連携を図っている。	利用開始時に終末期の希望を聞き、重度化した際に再確認している。医療面でのバックアップ体制が整っていないため、看取りは行っていない。本人の重度化時には、家族の意向を踏まえ、医療機関や他の介護施設と連携して、安心して移ることができるよう、支援している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習やAED講習の受講を随時受けるようにしており、緊急時や事故発生時についての勉強会も行っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力のもとに定期的に利用者も参加した避難訓練を行っている。訓練時には消火器の使用法、避難経路や非常食、備蓄品等の確認も行っている。地域の防災訓練にも参加し、避難経路図の見直し、災害時の協力依頼をしている。	消防署と連携して日中、夜間想定の大規模な火災、地震、風水害想定等の訓練と連絡網訓練を実施している。通報すれば数分でかけつけられるので、利用者の避難も主として消防署の支援を受けることで合意している。食料等の非常用備蓄は、3日以上を保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は認知症についての勉強会や、人権擁護の研修に参加して、専門的な知識を深めている。	排泄誘導時には小声で声掛けする、居室に入る時はノックをして了解を得て入室する等、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねない対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で本人の希望や思いを把握し、意向に沿えるよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態を把握し、一人ひとりのペースで生活できるよう、可能な範囲での支援を行っている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の利用を定期的に行っている。衣服もその日の気分に合わせて着用し、馴染みの美容院や散髪に行きたいという希望があれば、できる範囲で対応し、その人らしいお洒落ができるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、事業所の中庭で、野菜の栽培や収穫を職員と一緒にしている。収穫した野菜は調理や盛り付けを一緒に行なうことで、家庭菜園を楽しんでいる。	母体法人の管理栄養士が献立をしていますが、利用者の希望を聞き、柔軟に変更して対応している。敷地内の畑で利用者と一緒収穫した野菜を献立に加え、食事を楽しんでいる。利用者は配膳や食器洗い等、できることを職員と一緒にしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士の立てた献立表に基づき、バランスの取れた食事の提供をしており、摂取量や体重増減の把握にも努めている。また、咀嚼や嚥下の状態に応じて、食事形態の工夫も行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じた口腔ケアの支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、定期的な歯科検診や口腔内の評価も行ない、必要であれば歯科往診の調整も行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定期での誘導や声掛けで、できるだけトイレでの排泄が可能となるよう努めている。また排泄用品の使い分けをして、自立に向けた取り組みも行っている。	個々の排泄パターンを把握し、日中はおむつを使用せず、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。利用者一人ひとりに合った排泄用品の選択や支援の方法などを検討し、自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や影響を理解し、食事の工夫や運動で利用者が自然排便ができるよう取り組んでいる。日々の排便をチェックし、必要に応じて緩下剤を使用して、調整をしている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を問わず個々の状況や希望に応じた入浴ができるように努めている。また、お気に入り入浴剤やシャンプー、ボディークリームなど使用して、入浴を楽しんでもらえるように努めている。	週2回、午前中の中入浴を基本としているが、利用者の希望に柔軟に対応し、毎日でも入浴できる。入浴拒否の利用者には、対応する職員や時間を変更する等、個々に沿った支援で入浴につなげている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者には体操やレクリエーションへの参加を促し、日中の活動性を高め、夜間に良眠できるような支援を行っている。また、年齢や個々の身体状況を見て、日中に仮眠の時間を設けたりもしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬リストを作成し、職員がいつでも確認し、把握できるようにしている。服薬介助を行う際には、マニュアルに沿って確認をしながら介助にあたっている。また、薬の変更や注意事項があれば、随時申し送りを行っている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできること、好きなことを把握し、負担にならないように配慮しながら、職員と一緒に可能な活動が行えるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者個々の体調や希望に合わせ、散歩や買い物等、できる限り外出の希望に沿えるようにしている。家族にも協力してもらい、気分転換できる機会も設けている。	家族と食事に出かけたり、美容院に出かける利用者が数名いる。桜やあじさいの花見など、年間計画を立てて外出の機会を設けているが、一人ひとりの希望に沿った散歩や外気浴など、日常的な外出の機会が少ない。	年間行事としての外出だけでなく、事業所周辺の散歩や庭での外気浴など、利用者一人ひとりの希望や体調に合わせて、日常的な外出の取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、基本的に家族と事業所の管理としているが、希望があれば、できる限り希望に沿えるよう付き添い、買い物等の支援を行っている。また、家族にも購入を依頼している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも連絡や手紙を出したりできるよう支援体制を整えている。手紙が届いた際には、読んであげたりしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を整備し、四季が感じられるよう、日中は居室に自然の明かりや風等を取り込める工夫をしている。室温や湿度にも注意しながら、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	日当たりの良い共有スペースの食堂兼居間はゆったりとして広く、利用者はソファや畳の間でくつろいでいる。廊下も広く、居室は共有スペースから見通せるため、安全のための見守りもしやすい空間となっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で、気の合う利用者同士が会話を楽しめるよう至る所にソファを設置し、寛げる環境を提供している。時には新聞を読んだり、テレビ観たりと、一人で自由に過ごす時間も確保している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れた家具や持ち物などの持参を依頼している。馴染みの物を使用することで、居心地のよい環境の中で、利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮している。	掃除の行き届いた広い居室に、タンスや籐椅子とこじんまりとしたテーブル、家族の写真や観葉植物などが置かれ、本人が居心地良く過ごせる配慮がされている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や、生活の動線に配慮し、日々安全な生活が送れるよう、環境面の整備に努めている。		

ユニット名:

せせらぎ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：やまびこ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p><b>○理念の共有と実践</b></p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「住み慣れた地域で、笑顔あふれる心ゆたかな毎日を目指す」という基本理念のもとに、ミーティングを通して職員間で話し合っただけケアを振り返り、理念に沿ったケアが実践できるよう努めている。</p>		
2	(2)	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b></p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>傾聴ボランティアや日本舞踊のボランティアの訪問が定期的であり、山田祭りの日には踊り子隊が駐車場で踊りを披露してくれるなど、地域交流を盛んに行い、地域とのつながりが途切れないようにしている。</p>		
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b></p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域交流の場や、地区総会等に参加し、認知症についての相談が気軽に行えるよう、常に情報発信をしている。</p>		
4	(3)	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b></p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、事業所の近況や活動の報告を行っている。会議で出た意見はミーティングや職員会などを通じて職員に報告し、話し合っただけ、事業所サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。</p>		
5	(4)	<p><b>○市町村との連携</b></p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>日頃から市担当者とは細かなことでも連絡、相談を行い、良好な関係性の構築に努めている。市が開催する研修には、できるだけ参加するよう取り組んでいる。</p>		
6	(5)	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>母体法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、積極的な研修参加や、事業所内での勉強会により職員の知識向上を図って、不適切なケアにならないよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人全体で取り組んでおり、積極的な研修参加に努めている。管理者は職員が利用者に関わる様子にも気を配り、職員のストレスについても見逃さないよう、話をする機会を多く持っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等が必要な利用者については、管理者が市に出向き、対応する体制をとっている。また、職員が制度の理解ができるように、定期的に勉強会を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等をもとに、家族が不安を持つことのないよう、不明な点はないかを確認しながら、説明を行っている。面接時や入所前にも、できる限り説明を行うよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日々の関わりの中で意向を汲み取るようにしている。家族の来訪時には、要望を聞けるよう、コミュニケーションの取りやすい環境を作っている。出された意見や要望は、申し送りや会議で報告して、業務に反映させている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを密にし、常に意見交換している。業務中にも意見を聞き、運営に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望をできるだけ勤務シフトに反映し、無理なく業務を遂行できるように調整している。資格取得を奨励し、勉強会や研修等へ参加できる体制をつくって、職員が向上心を持って働けるようサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内外の研修情報を職員に提供し、順次参加できるよう働きかけている。研修受講後は職員会等を通して情報共有し、事業所全体のスキルアップに努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広報活動や母体法人内外の研修参加により、他事業所との交流が図れるよう努めている。交流の場で得た情報をもとに、サービスの質向上にも取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、担当職員から情報を得た上で本人と面接をし、困っていることがないか確認して、可能な場合は事業所を見学してもらい、少しでも不安が解消できるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と事前に時間を取り、入所に至るまでの経緯を聞き、困っていること、不安に思っていることの把握に努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としているサービスがある場合は、本人、家族と話し合い、母体法人内外の関係機関や行政と連絡を取り合って紹介するなど、対応をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が本人と一緒に掃除や畑仕事、家事等の軽作業を行い、利用者一人ひとりがこれまでの生活で培ってきた、経験や知識を教わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、面会時や家族会で利用者の近況を報告している。忙しく面会に来られない家族には、お便りや電話などで報告を行い、要望などを聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に友人や知人が面会に来られるよう、家族や友人にも協力してもらっている。外出なども継続して行えるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性について日々情報収集し、職員間で共有をしている。レクリエーションや行事等に参加してもらい、活動を通じて利用者同士の交流ができるよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族とは、普段から気軽に相談ができるような関係性の構築に努めている。また、長期入院等で退所した利用者は、その後の行き先についても事業所の紹介や入所相談などの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で観察力を高め、会話や本人の表情、仕草等から、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。家族来訪時にも、本人の意向を確認して、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後の生活に活かすことを説明し、入所前の生活歴やサービス利用状況を聞き、得た情報を職員間で共有し、入所後は適切な対応ができるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で利用者の状態を把握し、軽作業等を一緒に行うことで、できること、できないことの把握に努めている。自分でできることが継続して行えるよう、支援に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や意向を確認し、職員間で日々のケアについて話し合い、現状に合った介護計画の作成に努めている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、業務日誌に日々の様子を記録している。申し送りやノートを活用して、職員間での情報共有ができています。また、必要に応じて介護計画の見直しも行っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて柔軟な対応をすることで、その人がその人らしい生活が送れるよう、介護計画を見直し、家族が安心して就労や生活ができるように努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力のもとに、避難訓練を行っている。また、地域のボランティアにも定期的に訪問してもらい、利用者とは交流することで、楽しく豊かに暮らせている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療だけでなく、病状に応じて専門科への受診対応も行っている。定期的な受診は家族対応を基本としているが、緊急時や家族の都合に合わせて、適宜職員が対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との医療連携で利用者の日々の健康状態や体調不良時の連絡を密にし、指導、助言、指示が迅速に得られるよう連携を図っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、日々の状況などを情報提供している。入院中には職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努め、医療相談員や家族との連絡を密にして、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、本人、家族に重度化した場合の方針について十分な説明を行っている。重度化した場合には、他の施設や医療機関への移動がスムーズにできるよう、日頃から相談員や主治医とも連携を図っている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習やAED講習の受講を随時受けるようにしており、緊急時や事故発生時についての勉強会も行っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力のもとに定期的に利用者も参加した避難訓練を行っている。訓練時には消火器の使用法、避難経路や非常食、備蓄品等の確認も行っている。地域の防災訓練にも参加し、避難経路図の見直し、災害時の協力依頼をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は認知症についての勉強会や、人権擁護の研修に参加して、専門的な知識を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で本人の希望や思いを把握し、意向に沿えるよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態を把握し、一人ひとりのペースで生活できるよう、可能な範囲での支援を行っている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の利用を定期的に行っている。衣服もその日の気分に合わせて着用し、馴染みの美容院や散髪に行きたいという希望があれば、できる範囲で対応し、その人らしいお洒落ができるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、事業所の中庭で、野菜の栽培や収穫を職員と一緒にしている。収穫した野菜は調理や盛り付けを一緒に行なうことで、家庭菜園を楽しんでいる。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士の立てた献立表に基づき、バランスの取れた食事の提供をしており、摂取量や体重増減の把握にも努めている。また、咀嚼や嚥下の状態に応じて、食事形態の工夫も行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じた口腔ケアの支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、定期的な歯科検診や口腔内の評価も行ない、必要であれば歯科往診の調整も行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定期での誘導や声掛けで、できるだけトイレでの排泄が可能となるよう努めている。また排泄用品の使い分けをして、自立に向けた取り組みも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や影響を理解し、食事の工夫や運動で利用者が自然排便ができるよう取り組んでいる。日々の排便をチェックし、必要に応じて緩下剤を使用して、調整をしている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を問わず個々の状況や希望に応じた入浴ができるように努めている。また、お気に入りの入浴剤やシャンプー、ボディーソープなど使用して、入浴を楽しんでもらえるように努めている。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者には体操やレクリエーションへの参加を促し、日中の活動性を高め、夜間に良眠できるような支援を行っている。また、年齢や個々の身体状況を見て、日中に仮眠の時間を設けたりもしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬リストを作成し、職員がいつでも確認し、把握できるようにしている。服薬介助を行う際には、マニュアルに沿って確認をしながら介助にあたっている。また、薬の変更や注意事項があれば、随時申し送りを行っている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできること、好きなことを把握し、負担にならないように配慮しながら、職員と一緒に可能な活動が行えるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者個々の体調や希望に合わせ、散歩や買い物等、できる限り外出の希望に沿えるようにしている。家族にも協力してもらい、気分転換できる機会も設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、基本的に家族と事業所の管理としているが、希望があれば、できる限り希望に沿えるよう付き添い、買い物等の支援を行っている。また、家族にも購入を依頼している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも連絡や手紙を出したりできるよう支援体制を整えている。手紙が届いた際には、読んであげたりしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を整備し、四季が感じられるよう、日中は居室に自然の明かりや風等を取り込める工夫をしている。室温や湿度にも注意しながら、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で、気の合う利用者同士が会話を楽しめるよう至る所にソファを設置し、寛げる環境を提供している。時には新聞を読んだり、テレビ観たりと、一人で自由に過ごす時間も確保している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れた家具や持ち物などの持参を依頼している。馴染みの物を使用することで、居心地のよい環境の中で、利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や、生活の動線に配慮し、日々安全な生活が送れるよう、環境面の整備に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				